

■審議会・策定部会における意見整理

第1部 はじめに	
第1章 第5次総合計画について 3. 計画の構成と期間	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間は10年間ではAIの台頭などがある中、時代変化への対応が難しい。3年や5年が適当では。 ・長期の構想であれば20～30年のような方向もある。 ・基本計画の期間が10年は長い。3～5年が適切。
第2章 亀岡市を取り巻く社会経済の潮流	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な話題になっている。亀岡市固有の環境問題や経済的な問題点などを記載すると良い。 ・全体的にトーンが弱く感じる、特に産業の捉え方や問題点が記載されていない。亀岡市の産業・雇用の現状把握をし、記載することが重要。 ・亀岡市独自の潮流を書いてほしい。 ・潮流は経済・文化的な側面も書き込み、目指す都市像、重点テーマがつながってくる中身としてほしい。
1. 少子高齢化・人口減少	
2. 国際化の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年で国際化がより進むであろう。どう対応するのかを書き込む。
3. 情報通信技術の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・京都先端科学大学やAIなど、科学的な分野を特性として上手く書き込むべき。
4. 災害リスクの高まり	—
5. 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市特有のものが書かれると思うが「海洋汚染」は一般的な視点ではないか。
第3章 亀岡市のまちづくりの進展	<ul style="list-style-type: none"> ・京都縦貫道やスタジアムは完成している。これらを省くか、進展に係る課題を挙げたらどうか。 ・進展には過去を含む。これまでとこれからについて項目を分けるとわかりやすいのでは。 ・ハードに関するものばかりであるので、セーフコミュニティやガーデンミュージアム等も記載いただければ。
第4章 亀岡市の人口の見通し 1. 人口見通しと課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(20-39歳の女性の割合が少ないのは、)女性の雇用形態、待遇等も含めて影響しているのでは。子育て環境もあるが、元気のある女性を地域にとどめるためのあり方を考えないと出生率に影響する。 ・地方の多くは若者が一旦出て帰ってこない。兵庫県豊岡市では人口がどこで減っているか分析し、女性の若者回復率が男性の半分程度しかないことを数字で示し、ジェンダーギャップの解消を新たな施策として重点的に展開することとしている。地域、行政、事業所において、女性には補助的な仕事しか与えてこなかった等、厳しく要因を列挙している。その中で企業と一緒に働きやすい職場について施策検討している。 ・第4次では定住人口の目標10万人についての議論があり、無理という意見もあった。人口減少時代を考慮すれば、想定人口を掲げるのがふさわしいかが問題。計画の基本だが信頼性にも影響する。 ・定住人口を出さない方が良い。人口問題は社会構造の問題や時代の流れもあり、動かしにくい。目標という形では出すべきではない。 ・市民理解を求めるには、人口ビジョンを使いながら表現するのも一つのやり方。一定の数字を示して目標にする。表現の仕方は考えるべき。 ・定住人口10万人の目標は高すぎるので見直すのは良いが、交流人口等に基づき設備投資や基盤整備ができるのか。定住人口の目安があっても良い。 ・インフラ整備を含めて市民サービスをやらしてもらわないといけないので、定住人口も考慮すべき。 ・亀岡市に住んでいて道路整備の重要性を感じる。ダブルルートも大きな問題。想定人口を上積みし、整備について国との折衝することも重要かもしれない。 ・人口目標はまちづくりの基礎。それをもって説明するのがわかりやすい。 ・昼間人口を増やすにあたっては、インフラ整備も必要であり、そのためには人口目標が必要。 ・北部の高い出生率の要因がわかれば、亀岡市でもそのような政策を盛り込むことができるのでは。 ・亀岡市は京都市に近く、プラス要因がある。出生率を高める政策があってもよい。 ・合計特殊出生率2.07は到達できないし、いくらか上がっても人口増のインパクトにはならない。 ・合計特殊出生率を2.0に戻すという話ではないが、北部でできているのになぜ亀岡市でできないのか。京都市に近いこともあるが、もっとやりようがあると思う。 ・若い女性が定住することは、まちの活性化につながる。 ・人口はピークから1万人減っており、住民に料金負担をお願いする状況が出てくる。人口が維持されるなら従来通りのサービスを受けられて当然の感覚になる。想定人口を上積みした上で、負担をお願いするのは市民の理解が得られない。 ・正直に人口が減ることを示した方が良い。人口が高止まり状態なら負担はいらぬという住民の反応になる。現実離れた数字を出すと信頼性が得られない。 ・定住人口を増やすには雇用機会をどう確保するか、どう誘致していくかがポイント。プラごみゼロが成功すれば、環境都市として子育て環境のポイントにもなる。関係人口、交流人口の増加は人口増加のプラス要因であり、定住人口が伸びないことだけを心配しない方が良い。まちの良さを次第にわかっていくことに繋がる。 ・市街化調整区域で住宅がつかれないという足枷がある。既存集落まちづくり区域指定制度や府の移住促進特別区域に取り組んでいるが制限があり、子育て世代が移住してくれない。生徒も少なくなっている。 ・人口の見通しを示すだけでなく、なにか増やす方向性を示すことができないか。 ・定住人口やにぎわい人口の目標があつてこそ、少子化・高齢化に対する方策が出てくる。市民にとってもわかりやすいのではないか。 ・見通しの中に、高齢化の進展や社会保障費の増大が含まれる。持続可能なまちとなるために、人口の見通しを書き込んでほしい。 ・人口目標は、会社における売り上げ目標。人口の目標設定について検討を。

第1部 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口という言葉が出てきたが、「関係人口」の定義が進んできた訳でもない。交流・にぎわい人口の区別が必要かどうかポイント。 ・定住人口は減っても、スタジアムによる交流人口で増えているといった方向が汲み取れる考え方で検討してほしい。観光も含めた括りで考えるのが狙いになると思う。 ・他自治体と比較する際は、関係人口が共通概念になりつつあるので、あった方が良い。 ・人口も、市民がわかりやすい表現にすることが大事。亀岡市の取組を市民がイメージでき、皆が意気投合してやっていけることが大事。 ・観光入込客は平成30年で292万人。スタジアムができ上積みもできる想定だが、総合計画の焦点は人口フレームであり、これが核になる。 ・将来推計は難しく、これだけで住民心理の前向きなマインドが高められない。交流人口、関係人口をうまく使うべき。 ・観光入込客は増えており、特にインバウンドが多い。京都府立京都スタジアムの完成、ドラマ館オープンも追い風で国内観光客及びインバウンドの増加が見込める。インバウンドは、アグリツーリズム等により欧米にアピールを進めていく。にぎわい人口、交流人口など観光のあり方も脚光を浴びていくのでこの点書き込むべき。 ・スポーツ関係では、スタジアムとサイクリング、川下り等も繋げることができるのでは。 ・定住人口が減るとともに昼間人口割合が低下している。超高齢化社会を考える上で、昼間人口割合は考えるべき指標の1つ。 ・就業者・通学者について、流出2万人、流入8,000人となっているが、これだけ流出する原因分析が人口問題を考える上で重要。 ・昼間人口を如何にして増やすかは大切である。増やすには働き口が少なく、増やしていかないといけないが、市内で工場を建てる場所がないのが現実。 ・昼間人口はH27に約13,000人が流出しているが流出した人材をどれだけ埋めることができれば適正なのか、他の市町と比べることも必要。 ・人口フレーム自体を伸ばすよりも、昼間人口をどうするか、合計特殊出生率をどうするか、にぎわいをどう捉えるか、働く場所をどうするか、出産する年代の女性を注視すべきではないかといった、パーツを捉えながら検討すべき。 ・高齢化が進み、就労年齢が市外に流出していると高齢者しか残らない。そのため、昼間人口をどうやって増やすかの視点が大事。 ・外国人をどう考えるか。亀岡市に居住する外国人の方は現在約1,000人程度であるが、もっと増えていく可能性があり、人口のところで触れるべき。 ・京都スタジアムができたこともあり、自治連合会で静岡県磐田市に視察に行った。サッカーやラグビー等、スポーツを中心にまちづくりに力を入れており、亀岡市も参考になる。
第2部 まちづくりの展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりの展望」に人口を増やすや、少子化を止めるといった決意表明を盛り込めば、子どもを産む世代が住みたいと思ってもらえるのでは。
第1章 目指す都市像	<ul style="list-style-type: none"> ・強いところと弱いところを見ながらどういう方向で総合計画を策定するか検討したい。住みたい、選ばれるまち、若い人が帰ってきたいまち。今住んでいる人、亀岡を知っている人が住みたいと思えるまちにしないといけない。 ・このまちでいかに住みやすく、生きがいを持って市民が住めるかを考えていかないといけない。 ・目指す都市像と重点テーマには相互的な関係があると思う。 ・展望を示す強い方向付けが重要。 ・京都市の横にあり流されている印象がある中、輝きを持った方向の決意表明が必要。産業も含め京都市に負けずに頑張る方向を示してほしい。
第2章 土地利用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の方向に人が見えない。これらを進めることでどれだけ住みやすくなるのか示されると、重点テーマにつながる。 ・全国的に人口減少の中、それぞれ地域が良くなりたい思いがあることは理解できるが、できないことはできないものとして出すことも必要では。 ・国はコンパクトシティを掲げている。亀岡市は広域的な地理環境であり、2045年に人口7万人を切る中、行政コストとしてカバーできるのか。コンパクトシティ化を強く進めていく必要があるのでは。 ・行政サービスを受ける側である市民が今よりも負担する気持ちがあれば、今までの広域的な行政で良いかもしれないが、負担をより少なく、サービスの質の向上が求められることが予想されることから、コンパクトシティを考慮しなくてはならない。 ・コンパクトシティのモデルもありながら、周辺地域への移住・定住を推している。正反対の考え方の中で整合をどう図るかが難しい。
1. エリア別土地利用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「ア. 快適な住宅地域」で「地区計画や建築協定などの取組」といった方法について修正案では記載がされていないが、どのような方策を持って誘導するのか。 ・新しい市街地開発を進めていく中では建築協定等の発想もあったが、最近の亀岡では、住宅団地が次々とできる状況ではなく、公共空間の確保し、壁面をセットバックするような方向は現状に合っていない。 ・個別計画において、地区計画や建築協定を記載することもできると思うが、亀岡の市街地では使えない状況と思う。中心部でも空き家がでてくる状況であり、空き家をどう活用していくか記載したほうが良いと思う。 ・人口集積や工業集積、開発が増えているかと思う。今のやり方は良い方向で進んでいる。 ・「川」に関する土地利用がある点、交流の軸を中心に置いている点は魅せるべき点と思う。 ・駅北はこれから期待できると思う。
2. 都市構造の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・交流軸や地域拠点そのまま踏襲されている印象。 ・市でどうにかできるものではなく、基本構想に書き込む必要はないかもしれないが、地域交流軸の中に、新たなモビリティ技術を導入する試みがあることを書き込むのはどうか。 ・鉄道沿線や国道沿線は動きやすいが、例えば篠-千歳間といったそうではない場所の交流はあるのか。地域交流軸だけでなくネットワーク手段も書き込めれば良い。
3. ゾーン別地域振興の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市は地域によって性格が異なるが、施策の基本方針や各節の中に、土地利用・ゾーン別地域振興構想の政策が入ってくるのか。 ・第5次においてもゾーン別地域振興構想は3つで進めるのか。 ・全体の人口は減っているが、中心部では増えており、篠も学校が満杯。周辺をどうしていくかが課題。 ・特区を作り、亀岡で農業がしたい人が住めるようにするといった考えもあるのではないか。

<p>第3部 重点テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次では前期・後期にシンボルプロジェクトがあり、幅広い人から参画いただき、意見をいただけた。そのような検討はいかがか。 ・少子化・人口減少をどう食い止めていくのかを前提に、住みやすく、安全安心に住むことができ、子育てがしやすいまち、若い世代が仕事をし続けることができるまちをどう作っていくかが重点テーマの1つになるのではないか。 ・大学生が暮らしやすいまちは子育て世代や健康に不安を抱える高齢者にも暮らしやすいまちになるのでは。そういう方向が、重点テーマに入ってくれば良い。
<p>1. 子育てしたい、住み続けたいと思えるまちへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが大学に行っても帰ってきたいと思える、親が「亀岡は良いから、亀岡に戻っておいでよ」と、亀岡の魅力を伝えられるまちになれば良い。 ・子育てしやすい環境をつくることで嫁いだ人が帰ってくる、そして親に近く、環境の良いところで子育てしたいと思えるのでは。子育てしやすいまちづくりが重要。 ・アンケートより子育て支援を受ける世代がもっと支援を求めているのではないか。注視してほしい。 ・亀岡市の合計特殊出生率は低く、その点を底入れする施策があっても良いと思う。 ・子育て中の母親が住みやすい、暮らしやすいまちとなれば亀岡市で子どもを産んでくれる女性が増える。 ・子どもは地域社会の宝という考え方を示すべき。他のまちよりそういうまちであるというイメージを中高生に伝えていける環境が重要。 ・若い母親が亀岡市は住みやすそう、子育てしやすそうと感じてもらえる施策が必要。子育てに関連するものだけではなく、おしゃれなカフェに行きたいというニーズもあるだろう。このような視点は観光にも結び付くだろう。 ・転出を考えている人は買い物や通勤等が不便と答えている人が多い。また、子どもの教育が充実しているという割合が低い。安心して子どもを産み育てていける医療・福祉サービスが充実していることが一番大事だと思う。
<p>2. スポーツ、歴史・文化、観光の魅力で産業が活性化するまちへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・亀岡は世界的に有名な京野菜の聖地。京都に住んでいて亀岡のカリスマ農家の野菜を毎週買いに来ている。京野菜に言及したタイトルはすごく良いと思う。 ・高校生の放課後の居場所がないことについて、なんとかする必要はある。若い世代は刺激のある場所・楽しい場所を求めている。映画館は維持管理もあるので難しいとは思いますが、二条にあったとしても、高校生としては遠い、お金がかかるため亀岡にあったほうが良いという意見もある。 ・プロスポーツは大事。スタジアムができるタイミングであるため、力を入れたら良いと思う。 ・三大観光が主力だが、それぞれの拠点はキャパ一杯で倍増えることはない。保津川のラフティング、レンタサイクル、城下町のまちあるきなど単体で終わっており、拠点がつながっていない。二次交通が不十分で歩き回ってもらえるシステムが必要。簡単に泊まれる宿泊施設を充実していくことで更ににぎわいあるまちになると思う。 ・観光ではスポーツツーリズムも盛んになっている、自然が多い利点を活かし、スポーツツーリズムを開発し、売り出していくことは重要である。 ・スタジアム客は無理かもしれないが、湯の花温泉の送迎シャトルバスを自動運転化して、駅前や保津川下り経由で行くことが可能であれば、一度乗ってみようとなるのではないか。 ・(流出した昼間人口をどれほど埋めたら適正かに応じて)工場やアグリツーリズムなど、どこで雇用を生み出すかが出来上がるのではないか。 ・今後アグリツーリズムも盛んになると思う。 ・若い人には農業に興味ある方もいることから、場をつくってあげるのが良い。 ・農業をするには良い場所であり、亀岡市内の人はやらなくても他府県からきて頑張っている人がいる。それをどうやって増やしていくかが重要。 ・農業でもAIでデータを蓄積し、気候に応じて肥料や水のやり方を変更し、おいしい野菜を作る研究が始まっている。AI、自動運転など新しい時代のものについて、亀岡が先取りすると、若い人が亀岡市は面白いから行ってみたいと思う。 ・大学に行ってその後就職する際、亀岡市には職場がない。 ・京都市に近く、文化に触れることができる場所であり、シェアリングオフィスの需要もあるのでは。大手の産業が京都の人材を求めている。オフィスが京都市でなくネットで繋がり、作業を亀岡市で分担するなどできるのでは。 ・若い人の知恵を引っ張れるよう、人材育成も大事。空き家を利用して事務所をつくる、また、職場に行かなくても仕事ができる時代であるので、若い人の知恵を取り入れてほしい。
<p>3. 環境先進都市の実現で世界に誇れるまちへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラごみゼロの取組は全国放送されているが、市民がやってよかったと実感を持ってもらうことが必要であり、若い世代や女性に還元できることが大切である。 ・重点テーマの中でプラごみなどを示してもらえれば良い。 ・プラごみを出さないまちになったらすごいと思う。突拍子のないことであっても、本当に実現したい気持ちがあればできるのかなと思う。そのような計画ができればと思う。
<p>4. セーフコミュニティ、多文化共生によりだれもが安心して暮らせるまちへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大本教の前の道などを広くしてほしいという声も切実。 ・観光・地域でも海外の方が増えている。定住者向けに日本語や生活に馴染むサポートは重要であり、亀岡市においても考えてほしい。 ・登下校時に高齢者が出て、地域で見守っている。学校の先生にも、子どもを預けても安心できる環境であるとPRをお願いしている。 ・市の活力は何かを考えると、安全・安心なまちがある。地域力やまちの底力がどれだけあるか。災害弱者となる高齢者、障がいのある人、子ども、子育て中の母親が安心して生活できることを政策として打ち出すべき。 ・亀岡市が持つ地域特性があっても安心して暮らせるまちを打ち出しても良い。住民同士のネットワークがあり、災害弱者と言われる人も何かあった時でも暮らしていけることをまちの活力として出しても良い。 ・安全・安心のまちづくりが重要。災害に強いまちづくりを書き込んでほしい。その基盤があつてこそ仕事や暮らしがある。 ・安全・安心やセーフコミュニティはキーワードとして入れたい。 ・子どもが通学の際自転車を使用するが、歩道もなく、夜も暗い道であるため怖いと聞く。歩く人といった、弱い立場の人が安心してどこでも行けるまちづくりであってほしい。交通弱者の視点でまちづくりをしてほしい。

第4部 施策の基本方針〔施策の大綱〕	
第7 快適な生活を支える まちづくり ～都市基盤の整備～	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転は亀岡市にはうってつけ。高校生アンケートでもJR一本では不便、便利な交通機関がほしいと意見があった。自分たちのまちの誇りにもつながる。 ・車の自動運転と市内高齢者のためのサービス、買い物が不便という方のニーズに応える自動運転のネットワークを作るなど先進的な取組は面白い。 ・新しいテクノロジーとして、AI、ICT等が進み、交通は10年後オンデマンドで無人のものが走っていてもおかしくない。日本電産や大学の動きなど、新しいものをどう取り込み、活力として活かしていくのか書くべき。 ・住民意見では交通への意見が多く、手段が重要。コミュニティバスだけでない方向としてAIなどの方向性も視野に入ってくるのではないか。 ・大学周辺が住みやすい環境とは言い難く、空き家があっても学生の住める場所がない。買い物に行くだけでもバスや原付バイク、車が必要。
第8 効率的で明るい都市経営 ～計画を推進する行財政運営～	<ul style="list-style-type: none"> ・（亀岡が面白いことをしているといった）イメージ作戦は良いが、住民負担をどう軽減していくかが大事。住民税の引き下げは難しいが、手数料や料金設定等割安にできればインパクトがある。 ・施策の方向性の一つとして、医療費負担、給食費等が軽減されているまちというアプローチもあると思う。 ・行政サービスがどれほど行き届いているかも移動の要因として高いので、移住者を増やす取組に繋がる。 ・住民と非定住者で料金格差を設けるかについても議論の余地がある。
その他全体について	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の扱いは、カタカナ語を使わないような定義の設定とともに、注意しながら検討してほしい。 ・若い人の意見が面白い。自分たちが暮らしているまちなので、いろいろ考えていると思うが、発表したり、実現する機会が少ない。 ・次々面白いことをやっているイメージがあると、まちは動いていく。新しいアイデアを取り入れていくとまちの雰囲気が変わる。 ・「少子高齢化」とワンワードで表現するのではなく「少子化」と「高齢化」を分けるべき。 ・総合計画で予算の裏付けを盛り込むことは理想的ではあるが、そこまで割り振りができていないだろう。だからこそ住民の信頼が大事である。信頼を得ることができる計画にすべき。 ・期待を持ちながら作ること、若い人の未来を考えることは必要。 ・現実的な面と未来の側面とどちらも大事。わくわくできるかが重要。 ・ビジョンや夢について、自分たちがしてみたいことや、市民が集まってできることについて、短期・中期・長期的にできるよう整理し、実現できるよう示していくことが重要。